

(様式1)

自己評価票

作成日 平成 年 月 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872100904		
法人名	医療法人社団 健晴会		
事業所名	グループホームますおか内科	ユニット名	2階ユニット
所在地	〒312-0054 茨城県ひたちなか市はしかべ1-2-3		
自己評価作成日	平成23年2月13日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年4月15日	評価確定日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

基本理念である、その人らしさを尊重し、地域の方々と交流を深め、笑顔で健やかに過ごせるよう支援し、そして、協力病院（母体の医療法人社団ますおか内科クリニック）との連携により適切で医療が受けられ、体調の変化時には迅速に対応できます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしさを尊重し地域の方々と交流を深め、笑顔で健やかに過ごせるように支援します」との理念を掲げ、職員は出勤時に玄関に掲示してある理念の確認を行い、管理者と職員は朝礼や会議の際に共有を図り実践につなげている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	定時的に地域ボランティアの訪問があり、利用者と交流をしている。職員はゴミ収集所の後片付けに参加している。事業所は住宅地に立地し、地域住民と顔を合わせる機会が多く、挨拶や会話を楽しんでいる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実際に成果がでたケースなどをもとに、運営推進会議でそのケア方法を伝えたり、民生員より地域の方で介護方法で困っているという相談を受け、それについて話し合ったり、参考になるケースを話し、役立てていただいている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族等の代表、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、事業所の管理者、入居者代表等で2ヶ月に1回開催している。会議では事業所の運営状況を報告したり、家族等からは食事の感想などが出されている。自己評価や外部評価の結果も報告している。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者には毎月事業所の空き状況を報告したり、運営推進会議の報告書を提出して、伝えている。市主催のグループホーム懇談会が定期的に行われ、事業所の状況を説明している。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者や職員は身体拘束の弊害を把握すると共に、研修を受講し身体拘束のない支援に取り組んでいる。玄関先に押しボタン式の横断歩道があるため、家族等に説明し口頭で承諾を得て、やむを得ず時間を決めて玄関を施錠しているが、説明書や同意書を作成するまでには至っていない。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に全体会議、ミーティング、勉強会等で話し合い、また、研修会等にも参加し、虐待の防止についての意識を高める努力をし続けている。職員のストレスにも着目し、虐待につながらぬよう予防している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング、勉強会を行ない、研修等にも参加し、成年後見制度等の理解を深めると共に知識の向上に努めている。必要と考えられる場合には、それらの制度を活用できるよう説明している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時及び解約の際には文章にてわかりやすく、詳しい説明をすると共に、疑問、質問については、理解、納得が得られるよう努めている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の方にも運営推進会議に参加して頂いたり、苦情、相談等に関して受付を明示し、玄関ホールにも掲示している。また、意見箱設置して利用者、家族の思いを日頃から察知するよう努め、訴え等を職員と共有し会議等で話し合い運営に反映させている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月の全体会議や日常の業務の中で、職員の意見等を聞く体制を整えている。管理者と職員は勤務体制や業務の流れに関して話し合い運営に反映させている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の実績や勤務状況を把握、評価し、研修への参加や、資格取得の支援、やりがいなど向上心を持って働けるよう配慮している。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員が研修を受けられる機会を確保し、積極的にレベルアップやサービスの質の向上を図れるよう努めている。また、研修内容は他の職員へも伝え、働きながら技術や知識を身につけられるよう支援している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	介護支援専門員・グループホーム連絡協議会に属し研修会などに参加しながら、同業者と積極的に情報交換をする機会とし、質の向上につなげている。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた際、本人の訴えに耳を傾け、困っていること、求めている事等をできる限り把握するよう努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の訴えと同時に、家族の話もしっかり聞く姿勢を持ち、困っていること、求めていることの把握に努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心理状態や、身体・病状を把握し、本人と家族にとって必要な支援を検討・実施している。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の生活歴を把握し、花の手入れや家事等、得意分野での力を発揮できるような環境作りを心がけている。全て職員がやるのではなく、一緒にやったり、教えを乞うたりして支え合える関係につなげていけるよう配慮している。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時等、近況報告と共に職員も家族とのコミュニケーションを積極的に取るよう心掛け、一緒に本人を支える関係を築いていけるよう努めている。買い物に依頼することもある。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからの友人など馴染みの方々にも面会に来て頂いたり、また、散歩やドライブでいつもの場所へ出掛けたり、と今までの関係が途切れないよう支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間などでフロアに集まった時に話題の提供で皆で会話を楽しんだり、皆でできるレクリエーション等、交流できる機会をもちコミュニケーションを図っている。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もいつでも相談できる関係を続けていけるよう努めている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は日々の会話から利用者の思いや意向の把握に努めている。思いや意向の把握が困難な利用者に対しては、食事に来る時刻がいつもより遅い、あるいは様子がいつもと違うなど行動や表情から汲み取るように努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴を聞き、それを活かせるよう環境作りを行っている。日々のコミュニケーションからも把握している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに起きた状態をカードデックスに記入し、職員それぞれが目を通し、申し送ることにより現状を総合的に把握している。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族等の希望を聴き、医療スタッフや職員間で話し合い、作成している。また状態の変化に応じて家族や職員等と随時カンファレンスを行い、介護計画の見直しを行なっている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果等を個別の記録を行い、申し送りにて情報を共有し介護の実践や介護計画の見直しに活かしている。重要な事項は申し送りノートを作り、必ず職員が目を通し、チェックするように徹底している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々変わる要望に答え、事業所の多機能性を考え活かせるように努めている。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、消防署の協力が得られている。今後も協力を働きかけていくと共に、安全で豊かな暮らしができるよう支援していきたい。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者がかかりつけ医の受診を希望する場合は、家族等が付き添い受診しているが、職員は利用者の日常の様子を家族等に伝え適切な医療ができるよう支援している。家族等から受診結果の報告を受けるとともに、日誌に記録し職員間で確認している。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人のますおか内科クリニックの医師、看護職員に利用者の状態や気付きを伝え、適切な処置や受診を受けられるように支援している。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診や入院の際、職員や家族が付き添い情報提供、診療情報提供書、介護経過情報提供書等の交換を行っている。近隣の病院とも連携している。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期支援のあり方や事業所の対応について、医師、看護師等と連携を取り、本人・家族やかかりつけ医等関係者の意向を確認しながら、対応方針の共有を図っている。「ますおか内科クリニックの往診・訪問診療・訪問介護・看取りの指針について」により利用者や家族等に説明し、書面で承諾を得ている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、緊急時の対応に役立てている。また、職員間でも対処方法の話し合い等を定期的に行い、知識を深められるよう努めている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	。年2回避難訓練を実施し避難経路を確認するとともに、訓練後の反省点を職員で話し合っている。非常用持ち出し袋を用意している。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、トイレ誘導などの声かけや介助は利用者のプライバシーを損なわないように配慮している。個人記録等の書類は、直接人の目に触れることのない所定の場所に保管している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定を引き出せるようなわかりやすい説明、対応を心掛けている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が無理強いせず、行事への参加や入浴、食事の時間等、本人の意思を尊重し支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着脱時、希望をきいて着る服を一緒に選んだり、化粧をしていただいている。2ヶ月に1度美容院のサービスを利用し本人に合った散髪を受けている。 ¥1500円/回
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が食材等の話をしながら一緒にとっている。利用者はできる範囲で食事の下ごしらえや後片付けを職員と共に行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェック表の利用、利用者一人ひとりの水分量、おやつ摂取にも気を配り、一日量を把握し、状態に応じた支援が出来るように配慮している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は、忘れぬよう声かけし、できない方には、毎食後口腔ケアを行い、義歯は夜間洗浄している。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は排泄チェック表を活用しながら利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに声かけ誘導し、トイレでの排泄を支援している。職員はおむつを使用している利用者にも声をかけたり、サインを把握し誘導することで、トイレで排泄ができるよう支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分調整と、おやつに繊維の多い物や、整腸作用のあるヨーグルトを取り入れるなど工夫をしている。日課に体操やレクリエーションを組み入れ体を動かして頂くと共に、便秘薬が必要な方には医師より処方してもらっている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴と決まっているが、利用者の希望で毎日の入浴もできるように対応している。入浴を拒む利用者には毎日声かけをし、タイミングを伺いながら入浴を促している。リフト浴ができる構造になっているほか、シャワーチェアや滑り止めマットを用意し、安心して入浴できるように支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンの把握に努め、安眠できるように留意している。また日中はリズムのある生活を過ごしていただき、希望時は休息できるように配慮している。必要時は医師より入居者に合う眠剤を処方してもらっている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬剤情報がカードデックスに記載されており、職員はそれを確認して正しい服薬の支援に努めている。また訪問看護師のアドバイス等で症状の変化の確認に努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事、得意なことを見出し役割を持って張り合いのある生活を送っていただけるように心がけている。天気の良い日は戸外ベンチで日光浴をするなど気分転換できるようにしている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近所の小学校付近や住宅地を散歩しているほか、年間の花見予定をたて、季節毎に梅や桜、菖蒲、紫陽花、くだもの狩りなどに出かけている。家族の方にも協力を頂き、外食や買い物、ドライブを計画立て安全を考慮して、出かけるようにしている。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物等で金銭を所持する時には、家族と一緒に出かけってもらうように協力をお願いしている。また、欲しい物品のある時は、スタッフと一緒に買い物に行く。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望にて、電話を使えるよう支援し、定期的に手紙（年賀状、暑中見舞い等）を出し、家族とコミュニケーションを図れるよう支援している。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂兼居間には季節の花や観葉植物を置いたり、暖色系のカーテンや暖簾で明るく落ち着いた雰囲気をつくり、心和む空間を作っている。また毎日の掃除によりいつでもきれいな清潔感のある共用の場所となっている。室温も常に快適な温度を保っている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室にはテレビや棚を完備しており、フロアは自由に行き来できる。共用空間にはソファや和室を設置し、利用者同士、または職員との時間を過ごせる場所を設けている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはテレビと家具が備え付けられている。利用者は家族等の写真や人形、ラジカセットなど好みの物品を置き、居心地よく暮らせる居室となっている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室の入り口に表札を掲げると共に、浴室やトイレには分かりやすい目印を付ける等、わかる力の活用に留意している。また、バリアフリーに考慮し、入居者の残存機能を活かしたケアや生活リハビリ等を行っている。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない